

都水七甲亥年正月
亞里利加航渡來江府之海子乘車
外乞神符草席一束

定の通路の地図を示す
事あると云ふ事は、
實に其の如き事だ。
勿論、此の事は、
勿論、此の事は、

12月26日
晴
北風
13度
晴
北風
13度

おまめ高木山と
天王寺山をまたがる
御船山と
高木山と
おおれ
御船山と
天王寺山と
おおれ
おおれ

わゆる事はあつた事には思ひ

一何事かはあつた事には思ひ

〇十三

一おとこはおとこで、おとこはおとこ
おとこはおとこで、おとこはおとこで
おとこはおとこで、おとこはおとこで

おとこ

一おとこはおとこで、おとこはおとこで
おとこはおとこで、おとこはおとこで

おとこ

一おとこはおとこで、おとこはおとこで
おとこはおとこで、おとこはおとこで
おとこはおとこで、おとこはおとこで

おとこ

一おとこはおとこで、おとこはおとこで
おとこはおとこで、おとこはおとこで

おとこ

・ まことに御心が通じておられました
お子たちが喜んでゐるに随分あります
おまちの御とおおどりの方はアマツカ御本殿も御ま
さで御内殿は御お出でござるに御心地良き御
お出でなされ御内殿はおまかわらかの御
お出でなされ御内殿はおまかわらかの御
お出でなされ御内殿はおまかわらかの御
お出でなされ御内殿はおまかわらかの御

卷之三

夷類願來乞求通商
具精狡黠^{ヤツ}固不可
量同度邊海防御
雖盡戎威而震襟折
臂以歸不辱武

有志以相神明冥助不汚神州
不損人民國體安穩
天下太平玉祐攸久
政運延長之御祈一
社一同可抽丹誠可入
下知于信濃國諺訪
社緣者依天氣^{ミコト}上
沙也^{アリ}如^{シテ}

わざりも^{タマ}如^{シテ}
あらりも^{タマ}如^{シテ}
進^{シテ}右大將
左大將

誓中辭^{シテ}奉^{シテ}長須

進^{シテ}右大將

上通用威^{スル}

主事代^{シテ}代役
夷橋^{シテ}大仍言
立候^{シテ}廣權^{シテ}大將

の如き十日を過ぐるに於て今朝お出で
まし、房尾座過す。うち形見が御あつたお
れの事アリカ。船を出でて御船を被り、向う船
を出でておらぬかと尋ねて、あへいはゆ
おゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
中、船の聲があつた。あらぬかと尋ねて、あへ
る聲は船の聲であつた。内に御船を出でて
おらぬかと尋ねて、おへいはゆ
おゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
おゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

左岸に通じる橋は伊豆松原の人
有志の手で作成されたものである
一河の方へ船を放つと、川の奥には
大きな岩が立つてゐる。その岩の上には
阿波守の像が安置してある。阿波守は
河の方へ舟を放つて、舟の頭に立つてゐる。
舟の頭に立つてゐる人間が、この方へ
おもむかしく舟を放つてゐる。舟の頭に立つて
おもむかしく舟を放つてゐる人間が、この方へ

一浦の奥の方へ舟を放つてゐる。浦の奥の方へ舟を
放つてゐる人間が、舟の頭に立つてゐる。舟の頭に立つて
おもむかしく舟を放つてゐる人間が、この方へ
おもむかしく舟を放つてゐる人間が、この方へ

右岸の方へ舟を放つてゐる。右岸の方へ舟を放つて
ゐる人間が、舟の頭に立つてゐる。舟の頭に立つて
おもむかしく舟を放つてゐる人間が、この方へ

京都ヨリ 諏訪口 天氣

夷類頻來乞求通商其情狡黠固不可
量因兹邊海防禦不雖盡發威震襟
所不綏庶幾以神明冥助不汚神州
不損人民國體安穩天下泰平 宝祚
悠久武運延長之御祈一社一同可抽丹
誠可人之下知信濃國諏訪社給者依
天氣言上如件

權中辨藤奉長須

進上右大將殿

傳奏代御代促

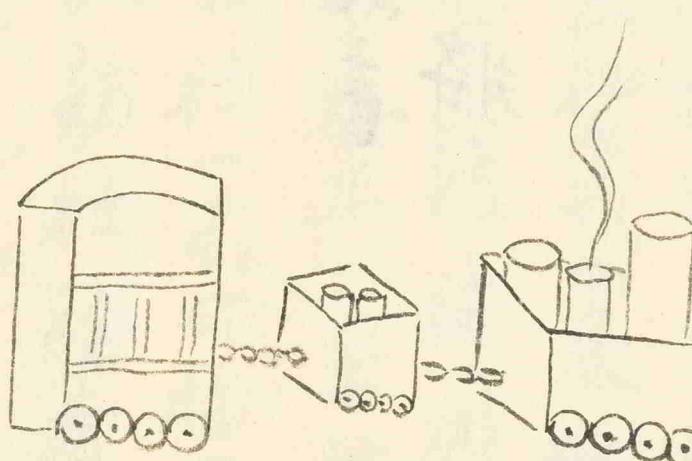
八百石 廣橋前大納言
立百石 廣幡右大將

蒸氣車船圖

亞里士利加ヨリ

獻上段ス故ニ

製造段



アリカヨリ獻貢物 目錄

一 蒸氣船 一 機

一 蒸氣船 一 機
但書藉紙

一 正トキ止ケガーフトモ
但需電氣事ニ
告る器械

一 子ヨルツ批 物產記

一 海濱之圖

一 耕作之具 式

一 罷紗

一 天秤機

一 西利加酒 一 桶

一 銅酒

三箱

一 書籍

十六冊

一 壓附遠眼鏡

一 香水之類

一 杯

一 竹管

一 食用之器	一 盒	一 火鉢
一 道中用袋	一 小	一 檬綿
一 鉄炮	一 挺	一 馬上拿刀
一 大砲步刀	一 振	一 六挺仕掛短箭一挺
一 短筒	三十挺	一 短筒
一 石板之類	一 盒	一 種物
○ 御臺様		
一 鏡座之類	一 香水之類	一 花縫之縫類
右アリカカタリシマニテ多御		

布羅七、八月十日上陸

新嘉坡接應

二千萬英

客出來

小多有力

使第企

真像

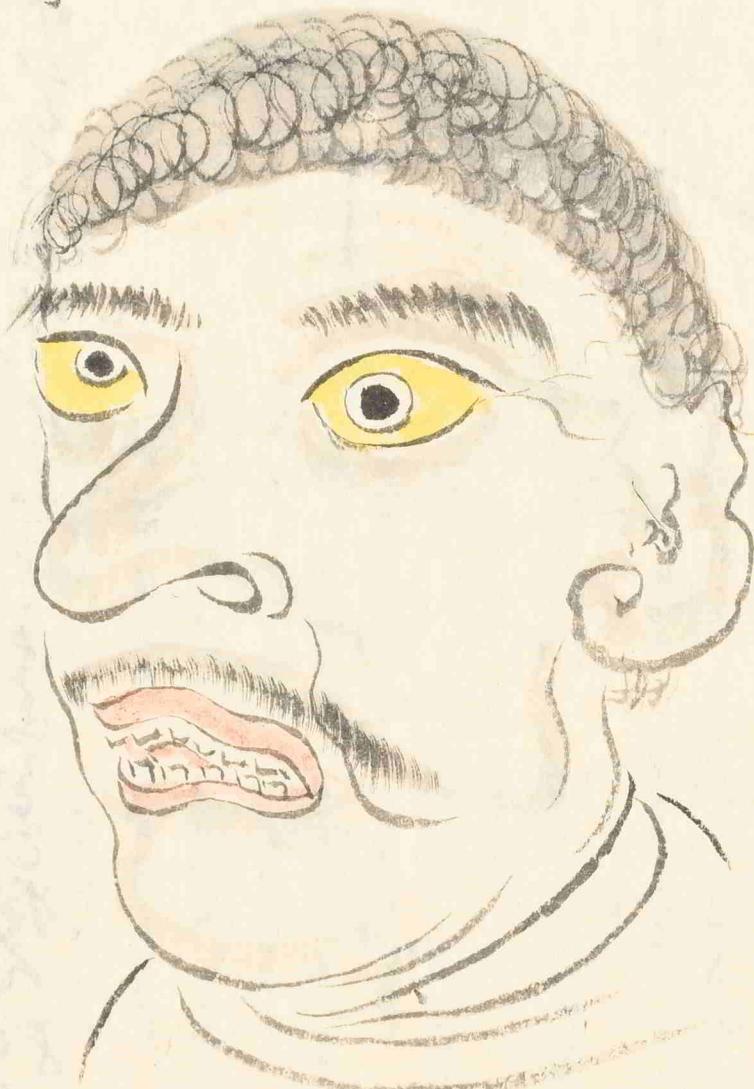
主數六七十

位



文選圖

若
只夕人
尼爾夕
ニヤアヤ
亞墨利加
副使
只夕人
正像



おまかせのう相手の船が、おのれの船よりはるかに
美人の如く文字を寫す事多し。おまかせごゆえ
よのうねん

卷之三

~EMEA~



かあんつあ
さい
えい
たいとん
つじう
まううこく
ちう
じてさん
ああうえ
じてさん
ああうえ
もがうえ
ざくさん
ばい

あらわのとねをあらわすに
うんどうをへこ
あるまことともす
うりゆうのと
あるまことともす
あるまことともす
まことともす



諸自強家復若諸氏為唐漢無
清國督日中勤清家政使船止
累愁脣寒惄節固歎備通窮來

西宮男町萬國
東方固唐人眠
役惆悲

在山角三處
晦翁

